2023

新任トップ陣の抱負と横顔

①就任の抱負　②座右の銘・仕事で心がけていること等　③趣味・最近の関心事など
④現代日本へ一石（これだけは言いたい）
⑤前職、生年月日

未来への継続

十勝中部広域水道企業団企業局長　久保　紀明

①昭和56年10月に十勝中部広域水道企業団が設立され、札内川ダムを水源とし、現在、1市4町2村に水道用水を供給しております。事業創設から40年が過ぎており、老朽化施設の更新や地震による被災を最小限にとどめるための耐震化など計画的に進め、誰でも安全・安心な水が当たり前に飲める環境整備を継続していきます。

②生活に欠かすことのできない水道用水の供給を構成団体や管理業者と連携・協力し進めてまいります。

③ゴルフ、スポーツ観戦

④最近では、コロナウイルス感染症も落ち着いてはいますが、完全な終息を願い、安全・安心に暮らせる生活となるよう祈っております。

⑤都市環境部土木室長、昭和39年5月20日

十勝中部広域㈳・久保氏

青森市・三浦氏

弘前市・小野氏

宮城県・菊池氏

真の豊かさを

青森市企業局水道部長　三浦　大延

①青森市においても、人口減少や節水型機器の普及に伴う水道料金の減少局面が進行する一方で、老朽施設の更新需要の増大などといった課題を抱えておりますが、これまで以上に、次代を担う若手職員の育成に力を入れながら、さらなる官民連携や広域連携を推進するとともに、平成30年度に策定した「青森市水道経営プラン」の検証・改定に取り組むこととし、本市水道事業の基本理念「真の豊かさをもたらす水環境」の実現に向け、将来にわたって安定的かつ継続的に、安全・安心な水道水を市民や事業者の皆さまに供給していくための経営基盤の強化を図ってまいりたいと考えています。

②和を以て貴しとなす

③カーリング（現在は、小学生から高校生までを指導しており、日々その成長を楽しんでます）

④コロナも落ち着き、ようやく「まち」に活気が戻ってきたと実感できるようになってきました。一日でも早く、若者達が未来に希望を持って生活できるような社会になることを願います。

⑤浪岡振興部長、昭和40年3月10日

宮城県・早坂氏

石巻地方広域㈳・佐藤氏

岩手中部㈳・八重樫氏

福島市・神藤氏

次世代に届け

郡山市・佐久間氏

いわき市・則政氏

二本松市・鈴木氏

鶴岡市・山口氏

小野　敦弘

弘前市上下水道部長

①人口減少や節水機器等の普及による料金収入の減少、上下水道施設の老朽化など、さまざまな課題は山積しておりますが、職員の英知を結集し対策を講じながら、事業の維持向上に努めてまいりたい。

②次世代への継承

③スキー、ジョギング

④人口減少、施設の老朽化、人材不足などさまざまな課題を乗り切り資産を次世代へ。

⑤工務課長、昭和40年3月7日

早坂　孝行

①宮城県企業局では、厳しさを増す経営環境においても持続可能な水道経営を確立するため、「官民連携」により民の力を最大限活用した「上工下水一体官民連携運営事業」（みやぎ型管理運営方式）が令和4年度から始まり、1年が経過しました。前例がなく、導入まで大変苦労された職員の思いを引継ぎ、円滑な事業運営が行えるよう取り組んでまいります。

②小事に拘わりて大事を忘るな

③蕎麦好き（蕎麦打ちに挑戦したい）

④就きたい職業として、公務員は常に上位に位置していますが、実態として新規採用者数が低迷してきています。公務員のブラック化も囁かれている中ですが、「人」（職員）を大切に、魅力ある職場にしていきたいと思います。

⑤土木部参事兼土木総務課長、昭和40年4月10日

発奮興起

宮城県企業局副局長（技術担当）　菊池　浩幸

①水道用水供給事業、工業用水道事業、流域下水道事業の三つの水道事業を官民連携により一体的に運営する「宮城県上工下水一体官民連携運営事業（みやぎ型管理運営方式）」の事業開始から2年目を迎えました。関係市町村や受水事業所様等との連携のもと、これまでと変わらず安全で良質な用水供給と安定した下水処理が継続されております。引き続き、運営状況のモニタリングをしっかり行い官民一体となって健全運営に努めるとともに、経営基盤強化のモデルになるよう取り組んでまいります。

②今日なし得ることに全力をつくせ・コミュニケーション

③週末の磯釣り、ソフトテニス・電力価格の高騰

④上工下水道事業はエネルギー消費産業の側面を有していることから、省エネルギー対策と併せ再生可能エネルギーの利用を一層推進することで、地球温暖化対策に対する事業者の社会的責任を果たしていかなければならないと思っています。

⑤北部土木事務所栗原地域事務所長、昭和39年10月15日

仕事に誠実さ

石巻地方広域水道企業団事務局長　佐藤　義浩

①東日本大震災からの復旧・復興事業も、ようやく今年度で完了するところまでたどり着きました。全国から頂いた多くの支援に改めて感謝いたします。今年度には29年ぶりとなる料金改定をさせていただき、今後は遅れていた老朽施設の更新・耐震化に本格的に着手し、さらなる基盤強化に取り組んでまいります。

②壁にぶつかって本気で向き合った時こそ、大きく成長できるチャンスなんだと考えるようにしています。

③家庭菜園、庭の手入れ、ギターを少々

④官民問わず、水道に携わる担い手不足は深刻です。そのため、IoTやAIなどの活用が必要不可欠となっていますが、最終的には、まだまだヒトが判断しなければなりません。災害時の事故対応など不測の事態にはヒトの能力が必要です。水道を熟知した人材の育成なくして将来の水道は守れません。

⑤理事兼事務局次長、昭和38年6月4日

恵水不盡

宮城県企業局副局長兼公営事業課長

次世代に継承

岩手中部水道企業団技監　八重樫　和博

①当企業団の水道は平成26年4月に岩手中部広域水道企業団、北上市、花巻市、紫波町の水道事業を垂直・水平統合を行い10年目の節目を迎えています。職員の努力により施設の統廃合が進み施設稼働率が向上しています。また、老朽管更新により有収率も統合時に比べ飛躍的に改善されています。しかし、老朽施設・老朽管も増加している状況にあり長期的視点でインフラ更新を行い、安心して次世代に事業継承していく事が大事と考えます。水道ビジョンの基本理念である「将来にわたって安全安心な水道を実現するとともに水道事業を通じて地域貢献を果たし、地域と未来をつなぐ岩手中部の水道」を目指していきたいです。

②拙速は巧遅に勝るの信条で仕事に当たるよう心掛けています。

③食べ歩き、ドライブ

④全国各地で地震など自然災害が発生しており、被害に合われた方々にお見舞い申し上げます。災害・事故に対する備えをしっかり行っていきたいと思っています。

⑤浄水課長、昭和39年5月5日

連携強化を

福島市水道局長　神藤　卓也

①国際的な品質評価機関から高い評価を得ているペットボトル「ふくしまの水」は、モンドセレクション2023において金賞を受賞し9年連続の金賞以上の受賞となっています。水道を取り巻く環境は厳しい状況にありますが、高品質でおいしい水道水を将来にわたり安定供給できるよう、局内の体制強化を図り民間事業者等の協力を得ながら水道事業を推進します。

②「備えあれば憂いなし」（さまざまな状況を想定し対策を持って行動する）

③ウォーキング、珈琲を淹れること（「超軟水」である福島市の水道水で淹れている）

④持続可能な水道とするためには水道を知ってもらうことが必要。水道は膨大な施設と多くの人が携わることで機能していること、そして将来にわたり利用者の大事な財産であることを理解してもらえるよう関係者の連携した取組みが必要と考えます。

⑤総務部参与兼信夫支所長、昭和38年7月23日

水循環社会

郡山市上下水道局長　佐久間　健一

①SDGsの理念のもと、DXによる効率的な事業運営に努めるとともに、当面する施設更新事業、将来にわたる水道施設の整備計画事業を着実に進め、災害に強く、安全・安心で持続可能な水循環社会の形成を目指してまいります。

②「凡事徹底」何事においても、平凡なことを徹底してやり続けることが大切で、成果を生む近道だと考えます。

③ランニング、最近は山の中を走るトレイルランにはまってます。

④地球温暖化等の気候変動により近年は豪雨増加や台風の大型化による大規模災害が頻発していることから、水道水の安全性確保、緊急時の体制強化が必要と感じています。

⑤次長兼経営管理課長

声を大切に

いわき市水道局長　則政　康三

①水需要減少や動力費高騰など事業環境は非常に厳しい状況にあるが、昨年度に策定した「いわき水みらいビジョン2031」のもと、以前からの施設更新事業等に加え、令和元年東日本台風の被害状況を踏まえた災害対策事業を着実に推進していきたい。

②やるべき時に、やるべき場所にいて、やるべきことをやる

③城めぐり、スポーツ観戦、読書

④〝広く会議を興し、万機公論に決すべし〟、最近よく明治政府の施政方針第1条が頭をよぎります。今後、本市水道事業は冒頭の厳しい事業環境の中で各事業を計画的に実施した場合、令和9年度から資金ショートが想定されています。料金改定には、改定理由のわかりやすい説明、収益的・資本的支出両面の経費削減など、使用者に対して説明責任が求められますが、これらに悩むたび〝万機公論に決すべし〟に回帰しようと思っています。

⑤次長兼総合調整担当、昭和40年1月26日

戒石銘の精神

二本松市建設部長　鈴木　喜代一

①二本松市の水道事業は、平成17年12月に二本松市、安達町、岩代町、東和町の1市3町が合併し、新たに二本松市水道事業としてスタートしました。その後各水道事業の統合等を経て、上水道事業、岩代簡易水道事業、東和簡易水道事業の3事業を行っており、令和3年度からは未普及地域の解消を図るため上水道の第7次拡張事業に着手しております。「安全でおいしい水を将来にわたり安定的に供給できる水道づくり」を推進してまいります。

②二本松市には、旧二本松藩政時代の藩士の戒めを目的とした、戒（かい）石（せき）銘（めい）があります。「爾俸（なんじのほう）爾（なんじの）禄（ろくは）　民（たみの）膏（こう）民（たみの）脂（しなり）　下民虐（かみんしいたげ）易（やすきも）　上天欺難（じょうてんあざむきがたし）」意味は「お前（武士）の俸給は、人民達があぶらして働いたたまものである。お前は人民に感謝し、いたわらねばならない。この気持ちを忘れて、弱い人たちを虐げたりすると、きっと天罰があろうぞ」戒石銘の精神を忘れることなく務めてまいります。

③家庭菜園、映画鑑賞

④世界平和、平時の生活に戻ることを願います。

⑤建設部土木課長、昭和40年9月11日

継続・持続

鶴岡市上下水道部長　山口　幸久

①鶴岡市の上下水道事業は、人口減少、施設の老朽対策、耐震対策など多くの課題がある一方で、市民生活を支える重要なインフラとしての機能と役割を持続して担う事が求められています。本市においても計画的に継続した取組みを進め、経営基盤・事業基盤の強化を図ります。

②変わることを恐れずに

③フィッシング

④近年におけるコロナウイルスやウクライナ情勢など、世界が混沌とする状況がある一方で、ITやICTをはじめとする新たな技術の革新によって、社会が目まぐるしく変革し、さまざまな面で求められる物や役割・水準が変化し、またそのスピードも変化していると感じます。しかし、そんな中でも変わることなく守るべき理念はどんなことにも必ずあると考えています。上下水道事業も時代の変革や要求に対応しつつも、市民生活を支え未来にしっかりと受け継ぐことが必要と考えます。

⑤下水道課長、昭和41年12月8日

人を第一に

東京都多摩水道改革推進本部長　石井　英男

①多摩地区水道を受け持つ職員たちが「やりがい」を感じることができる職場環境を作ること。そのためにも、本部長は常に未来起点の発想法であるバックキャスティングで物事を考え、職員とともに歩んで行きたいと思います。

②その昔、工販分離で誕生したトヨタ自動車販売の初代社長、神谷正太郎氏の言葉「一にユーザー、二にディーラー、三にメーカーの利益」です。これを水道事業に例えると、一にお客さま（水道ご利用者）、二に工事事業者、三に水道局の利益となります。局は最後で良